

七月末になると、「九月〇日までは休暇のため閉店します」という貼り紙を出す。お得意さんは、閉店の前に大量のパンを注文し、冷凍庫にごっそり貯えておくというのにあひなる。ことほど左様に、カナダ人の夏期休暇はゆとりがある。



然だ。カナダ人が見向きもしない湖でも、日本へ持って行ったらちよつとした観光名所になること間違いなしだ。こうした無数の湖畔に別荘がある。オンタリオ州のジョージアン・ベイ東岸などは、いわばメッカ。その一つムスコカ地域は「コテージ・カントリー」という異名をとっており、天気予報などでは「コテージ・



大量の食糧を買い込んで湖畔のキャンピング・サイトで飽きるまで「停泊」。次はあの湖、その次は……などという「はしごキャンプ」として可能だ。ただ、湖が無数にある割には、大都市から近い別荘地は水際がほぼプライベート・プロパティ（個人所有地）になっていて、気軽に入り込むことはできない。別荘だからこそプライベートシーを確保しよ

中産階級以上になると、休暇の「受け皿」がある。別荘である。幸い、「銀座通り」まで出現してアンノン族でこた返す日本の軽井沢などと違って、別荘地はそれこそ掃いて捨てるほどある。周知のとおり、カナダは森と湖の国。湖の数を聞かれて、正確に答えられるカナダ人はまずいない。小さな湖まで含めると、一説では数百万とも言われるが、とにかく数え切れないというのが正直なところ。大きな世界地図でも見てもらえば一目瞭

カントリーは時々晴……」などとやっている。

休暇ならずとも、週末になるとボートを屋根に乗せて、車で北へ向かう光景をよく見かける。湖で泳ぐのもよし、釣りをするのもよし。家族水入らずの、ゆつたりとした休暇を過ごすのが典型的だ。

別荘がないからと悲観することはない。キャンプ・サイトも完備している。一、二週間キャンピング・カーをレンタルし、

うというわけで、湖畔の休暇を楽しみたい「外来者」は、少々遠出する必要がある。

夏は子供たちの季節でもある。新学期が始まる九月までの間、宿題からも解放されて、大いに羽を伸ばせる貴重な時期だ。ポピュラーなのがキャンプ。夏休み中のいわば集団合宿で、私立学校が企画したものから、コミュニティー、スポー

ツ業界のものまでいろいろあり、子供の好みと予算を考えつつ選べる。北の湖での「カヌー・キャンプ」、ロッジを利用した「テニス・キャンプ」、通学ができる「デー・キャンプ」……どのキャンプに入るかをめぐって家族会議をやることも。長いものになると一か月間というものもある。料金は千ドル近くになるので決して安くはないが、健康管理からキャンプの企画まで全て主催者側に任せられるから、親にとっては便利だ。子供がキャンプに参加している間、夫婦だけで長期旅行を楽しめるというメリットもある。子供にとっても、友達づくりにはもってこいで、新学期へ向けた足ならしにもなる。それに、集団生活体験とスポーツの習得が加われば、夏休みも充実したものになる。

アルバイトも子供たちの夏に欠かせない。夏に限ったことではないが、カナダ人はよく自分の子供に家の仕事を手伝わせる。筆者が行きつけの八百屋では、週末になると、小学生ぐらいの女の子がレジで客の買物の袋詰めをしたり、野菜、果物の運搬でために働いており、決していやな顔をしない。むしろ両親に交じって働くのが得意そうである。

よく見かけなのがアイスクリーム売り。アイスクリームが入った冷凍庫を自転車の押し車で人の集まりそうな公園などへ運んで行つては、チリンチリン鈴を鳴らしながら、「アイスクリームはいかが」と黄色い声を張り上げている。変わったものでは、車洗いのアルバイトもある。浴